

中央館取壊しの暴挙

4月緊急抗議行動

2じ

中央館跡地

東京の学生、教職員のみなさん、我々は、三月に学生自治会が暴行中、学生には一切の施設もなく、暴力的に教養部中央館を壊すべく、この通り壊したことを断固抗議する。今回のぬきうちのとり壊しは、学生がいなくなる暴行を狙ったという極めて悪うつなものである。至るのみなさんが、4月抗議集りに参加される様子を祈る。

ぬきうちのとりこわしの意味するもの

一生懸命の中央館ぬきうち取壊しは何を意味しているのだろうか。とりわけ破壊中、教養部跡地の敷地の中で、学生自治会が管理強化をなし切らんとする大学当局と我々の交渉の中で、しつかりと見ておく必要がある。

至るもこの言えることは、学生のフランス活動、サークル活動の物理的基礎たる中央館を、大学当局が一方的にうち壊すべしと強要するに似て、強制的に強要するに似て、この通り壊した大学当局を断固して許さない。また、我々は今回の暴行が、決して一方的に破壊した大学当局を断固して許さない。また、我々は今回の暴行が決して、東京で置きあれている熊野、吉田二寮に対する要求を放棄、自衛隊去らさず、規定、4月20日等の学内管理治安弾圧の一連の動きに、この破壊を、よくよく受け止める。

また、我々は、現在、前記のとおり、この教育再編攻撃は、学生運動、学生自治会、自主的創造的活動をつぶすため、警察権力の力を借りることを許さないという

4月20日通知の貫徹を軸に一歩的におしすすめてつた。そして、東京にのり、総長に総戦犯超絶反動の又田が怒り、以来、増え強権が、強行になり、とりわけ前学生部長、野川を切り二隊隊長に使い、吉田、熊野二寮に対する治安攻撃は、完全なる警察権力との緊密な連携の下ですまわつた。更に、この反動派の暴行は、今年4月20日以降相い、次々五看撤去攻撃には、学生部職員や学生部出入り業者まで使われ、学生の自由なる表現手段を奪おうとしている。そして、今度は教養部中央館取壊しである。精神防衛戦、関西新研、京都府構想と同様に最近急上昇している教養部改革（すなわち教養部の制度的）とり壊し、単位制強化、留年制復活、そして他大学の様な講義研修センター化（のたのたのアドバルーン）として行なわれたのは、強要である。しかも予想される抵抗を排除するため、一切学生に知らせず、何の論議もなく、学生のいない夏休みをねらうというハレンチ極まりないもので、教養部当局が至るの権力機関として我々の上にまどうとしているのだ。また、この諸君、もはやこれ以上の大学当局の暴挙、高圧的な態度を断固して許してはならない。今こそ我々は反響の陣型をつくりだしていかなければならないのだ。

我々学生自治会同窓会は、今まで管理強化、学内治安弾圧を断固して許すことなく、4月20日通知、徹底化攻撃精神をまっさらからかけ、京大における強権的教育再編攻撃と闘ってきた。

そして、中央館のとりこわしという前代未聞のこの暴挙を、もって糾弾することにも、すべての学生諸君が、4月同窓会の旗のもと、抗議集りに参加されるよう強く訴える。

同窓会